

輪ギク生産者の経営安定に向けた暑熱対策

【研究のポイント】

輪ギクは本県の花き産出額第1位の品目ですが、近年の夏季の異常高温により開花遅延や奇形花が発生し、安定生産の妨げとなっています。
そこで近年国内外で開発され、高温に対するストレス耐性向上効果等で注目されている「バイオスティミュラント」と呼ばれる資材を輪ギクに散布し、高温期における品質安定効果を検証しました。
「バイオスティミュラント」は、農作物又は土壤に施すことで農作物やその周りの土壤が元々持つ機能を補助する効果があるとされています。

【研究の成果】

1 R5年度に栽培期間が高温期にあたる9月開花の作型において、定植から開花までの期間に、週1回バイオスティミュラント資材を散布し、暑熱対策効果を調査しました。

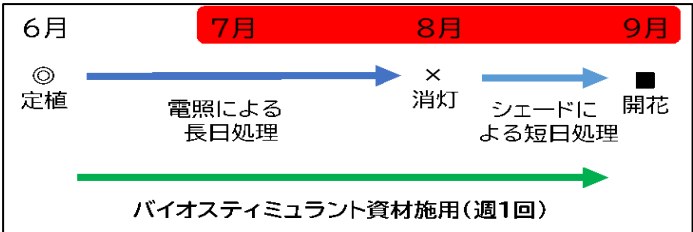


図1..試験作型(9月開花作型)



図2.バイオスティミュラントの一例

2 バイオスティミュラント2剤(BS1、BS2)と無処理区とで比較しました。3区を比べたところ、バイオスティミュラントの施用により、奇形花発生率が低減されました(表1)。

また、消灯時草丈(表1)、収穫日、切り花長、茎径、70 cm調整重、花径等(データ記載なし)の諸形質は試験区間で差はありませんでした。

表1.令和5年度試験結果

供試資材	消灯時草丈 cm	奇形花発生程度 (1・2・3・4)	3以上発生率 %
BS1	48.1	1.6	13.3
BS2	48.2	1.8	21.7
無処理	47.9	1.9	25.2

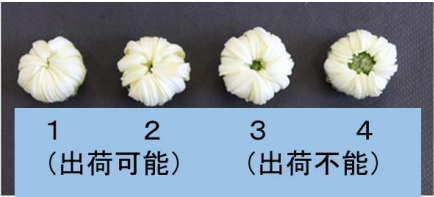


図3.奇形花発生程度

これらの結果から令和7年度は県内で栽培されている主要品種「精の一世」で試験を行います。

【生産者の声】



輪ギク生産者にとって需要期の安定生産はとても重要だが、近年の異常気象で栽培しにくくなっている。
9月出荷作型は、栽培期間の後半が高温期にあたるため、特に品質が不安定となっており、暑熱対策が急務となっている。今回の試験結果を活かした現地主要品種での検討を期待している。
(JAおおいた 蒲江花卉生産組合)

【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 農業研究部花きグループ 花きチーム
TEL : 0977-66-4706
住所: 大分県別府市大字鶴見710-1